

（午後3時30分 再開）

○議長（井上勝彦君）休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い一般質問を行います。

順番13、9番 上田君。

〔9番（上田良治君）登壇〕

○9番（上田良治君）議長のお許しをいただきまして、今回質問させていただきますオリジナル・ナンバープレートの作成について、全国で導入されております資料、これを皆さんに添付しておりますので、それを見ていただきまして、ひとつよろしくお願ひします。

それでは、通告に従い一般質問を始めさせていただきます。

まず最初に、オリジナル・ナンバープレート作成についてであります。

市町村が無償で発行する125cc以下のバイクなどのナンバープレートは、車両所有者に課税する軽自動車の標識であり、50cc以下は白色、50ccを超え90cc以下は黄色、90ccを超え125cc以下は桃色のプレートとなっております。

これらのナンバープレートについては、形状や図柄に明確な規定が設けられていないことから、運転に危険が及ばない範囲であれば、形状変更しても問題がないことから、各自治体がナンバープレートの形状変更を導入し、雲型や米型、こいのぼりの形をしたプレートを発行し、歴史や特産品をモチーフにしたものなど、ユニークなデザインがたくさんあります。現在、橋本市のナンバープレートは、長方形で排気量に応じて色分けをした標準的なものを使用されておりますが、自分たちのまちのイメージやアイデンティティーへのこだわり、誇りをかき立てるツールにしていき、

橋本市の特色を生かしたデザインを募集、採用し、地域振興や観光名所などを目的として、イメージキャラクターをモチーフに、ご当地ナンバープレートを作成、発行して交付すれば、市内、府県間地域の特色も生かした走り回る動く広告塔として幅広くPRすることができ、橋本市のイメージアップにつながるものと考えます。

オリジナルによっては、消費向上に直結する有効な施策であり、実行していただければ和歌山県では初の導入ということで、報道機関にも大々的に取り上げられることから、市の売り込みチャンスであると考えますので、以下の見解をお伺ひいたします。

①本市の125cc以下のバイクの登録数はいかほどですか。

②年間の登録台数はいかほどですか。

③ナンバープレートの在庫枚数はいかほどですか。

④現在のナンバープレートをオリジナル・ナンバープレートに変更した場合の費用対効果をお聞きいたします。

2番目の電気自動車の普及に向けた取り組みについて。

現在、地球温暖化が深刻化する中、燃料の100%を石油に依存し、国内のCO₂排出量の約20%を占める自動車は、CO₂排出量の低減など、すぐれた環境性への転換が求められています。

こうした中、リチウムイオン電池を搭載した電気自動車（EV）は、走行時の排出ガスがゼロ、CO₂排出量は発電所で電気をつくる際の発生量を考慮しても、ガソリン車の4分の1程度、ハイブリッド車の2分の1以下と、現在走行している自動車の中で最も環境性に

すぐれていることから、地球温暖化の防止、石油依存度の低減、都市環境の改善を図るために、本格的な普及推進が必要となっています。

このような状況の中で、環境性にすぐれたEV普及啓発に取り組んでいる自治体が、全国的に増えております。橋本市も環境に優しい省エネ性能の高いハイブリッド車を3台購入されておりますが、電気自動車は購入されておられません。橋本市は電気自動車の購入を率先して考えておられるのですか。また、民間事業者の方など、次世代自動車の普及啓発に積極的に取り組んでいただきたいと思しますので、見解をお聞かせください。

次に、電気自動車用充電設備についてであります。

電気自動車は、1回の充電で100kmから160km程度しか走れないので、普及には充電施設の充実が欠かせません。このため、各自治体が多様な取り組みを始めており、和歌山県では「わかやま電気自動車充電ネットワーク」の構築に向けた取り組みとして、電気自動車移動できる環境づくりを進めるため、一般開放していただける法人または個人事業者に対して、充電器設置工事の補助を促し、自立型充電器設置には2分の1、簡易充電器には3分の1の補助、公共機関については10分の10を全額補助し、県下7カ所に急速充電器を設置すると発表しておりますが、橋本市が設置名に上がっておりません。なぜ申請されなかったのですか。民間事業者のスーパー「オークワ」は、大型商業施設（和歌山市）の駐車場に今回の補助事業を活用し、充電スタンドを設置され、買い物などの間に気軽に使ってほしいとして無料の電気を供給、今後の稼働率を見きわめて他店にも設置していく計画であるとお聞きいたします。

橋本市では、隅田中央商店街が今回の補助

事業を活用して簡易充電器を一般開放し、EV車の普及と環境づくり、地球温暖化防止をめざすとともに、消費者へのサービスを提供し、リピーター率を上げ、売り上げや観光客の増加を目指して、今月末に事業を開始する予定であります。

役所はサービス業であると同時に、地球温暖化防止については市が率先して取り組んでいるということを示していくことが大事であると思います。今後、橋本市が電気自動車の充電施設の充実に向けた取り組みをどのように考え、計画をしているのか、見解をお伺いいたします。

以上で、壇上からの質問を終わります。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君の一般質問に対する答弁を求めます。

総務部長。

〔総務部長（那須浩二君）登壇〕

○総務部長（那須浩二君）オリジナル・ナンバープレートのご質問にお答えします。

オリジナル・ナンバープレートの作成についてであります。全国的な流れとして、各自治体において地域活性化や観光振興の観点、また動く広告塔として、オリジナル・ナンバープレートを採用する自治体が増えています。

そこで、1点目の原動機付き自転車の登録台数につきましては、125cc以下のバイクの登録総台数は、平成22年度決算から1万363台となっています。

2点目の年間登録台数については、平成22年度決算から917台となっています。

3点目の原動機付き自転車のナンバープレートの在庫枚数は、平成24年2月末現在で1,906枚という状況です。

最後に、4点目のオリジナル・ナンバープレートに変更した場合の費用対効果については、数字での効果は申し上げられませんが、

費用についてはプレートの金型製作費は特別なデザインを施す場合は150万円程度必要となり、さらにプレートの作成料は現行プレート作成料120円の約3倍の360円程度になると言われています。

オリジナル・ナンバープレートは、冒頭に申し上げましたように、橋本市の地域振興や観光振興のPRの一つとして有効となるかとは思いますが、全国1,750市町村のうち独自ナンバーを採用しているのはわずか5.5%の96自治体であり、その効果についてはわからない状況です。

したがって、先行して導入されている自治体の状況や効果等を調査、研究しながら、検討してまいりたいと考えます。

○議長（井上勝彦君）市民部長。

〔市民部長（井浦健之君）登壇〕

○市民部長（井浦健之君）電気自動車の普及に向けた取り組みのご質問にお答えします。

まず、電気自動車の普及啓発についてですが、地球温暖化が深刻化する中、CO₂排出量の約20%を占める自動車について、CO₂排出量の大幅な低減のため、環境性にすぐれた電気自動車普及啓発に率先して取り組む必要があると考えています。本市といたしましては、電気自動車の普及推進については十分認識しており、このたび新設する保健福祉センターに購入を計画しており、当面の対応と考えています。

また、電気自動車の充電施設普及に向けた取り組み計画についてですが、再生可能エネルギーを積極的に取り入れ、省エネルギーに配慮し、環境にも優しい施設整備をめざすために、新設する保健福祉センターへの設置を計画しているところです。

一方で、電気自動車購入については、車両価格がまだまだ高額であることや、一回の充電による走行距離が短いなど、普及にあたっ

ての課題もあるところです。和歌山県の電気自動車購入補助金を受けての台数については、平成22年度累計で74台となっております。また、県内の急速充電器設置箇所数は、自動車メーカーが3カ所設置しており、環境整備を図るため、世界遺産の主要拠点である道の駅などに本年度中に7カ所設置する予定であるとのこと。

なお、議員おただしの補助金制度の活用についてですが、和歌山県地域グリーンニューディール基金事業にて公共急速充電器設置事業について申請するため、県と協議を行ったところ、平成23年度設置完了が対象であるため、やむなく申請を行いませんでした。

今後、本市といたしましては、排ガスによる環境悪化を防ぎ、CO₂の効果的な削減が期待される電気自動車の普及促進に向け、積極的に取り組んでまいりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君、再質問ありますか。

9番 上田君。

○9番（上田良治君）ありがとうございます。

それでは、通告に基づいて再質問を行いたいと思います。

まず①、バイクの登録台数1万363台ということなんですが、これは平成22年度は1万363台ということ、平成21年度というデータはわかりますでしょうか。

それから、②の917台登録台数ということなんですが、ほかに名義変更などによって再発行される方もおられると思うんですが、これの枚数も入っているのかどうか。この2点まずお伺いします。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君の再質問に対する答弁を求めます。

総務部長。

○総務部長（那須浩二君）まず、1点目の平

成22年度現在の登録数が1万363台ということでございます。ということは、平成22年度に917台が増えておりますので、これを減じた数字が平成21年度ということで、平成22年度では917台増加しています。(発言する者あり) 廃車はちょっと申しわけないんですが、手元にはなっておりませんが、名義変更は台数には変わりはないものですので、名義変更につきましてはそのままの数ということになります。

以上です。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）名義変更、廃車等あるんですが、名義変更でももう新しいナンバーに変えたいという人は古いのを処分して新しいのを申請されるのと違うのか。そう思いますが、名義変更については古いナンバー、廃車した場合は新しいナンバーに変える方が多いと思うんですよ。その枚数も入れてのことですか。

○議長（井上勝彦君）総務部長。

○総務部長（那須浩二君）名義変更される場合はそのまま書類上で名義変更されるケースが多いので、ナンバープレートの変更というのはあまり生じません。ただ、一度廃止届ということでナンバープレートをお持ちになって、廃止をされる。そのまま廃止してからどなたかに譲られたりして、その方が新たに登録される場合は新たな交付ということになります。ですから、登録台数の中にはそのケースもあろうかと思えます。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）わかりました。それで、だいたい枚数をお聞かせ願ったんですが、1,906枚の在庫があるということなんですが、これは計算したらわかるんだけど、だいたい何年分の在庫を抱えておられるのかな。この1,906枚ということは。

○議長（井上勝彦君）総務部長。

○総務部長（那須浩二君）約2年分でございます。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）今回のこのオリジナル・ナンバープレート、在庫を2年分抱えておると。それと最初に新しいご当地ナンバープレートに変えていく場合は金型が要るし、だいたい150万円ですか、金型に要ると。それと、1枚単価360円要ってくるということですか。これは1,000枚作成した場合ということですか。1,000枚でだいたい360円要ってくるということですか。これを計算しますと、200万円以下でできるということと思うんです。今抱えておるナンバープレート、従来型のあるんで、今の在庫がはけたときに、2年後に向けていろいろ研究、導入をしていくというお答えだったと思うんですが、私がひとつ思うのは、これはでけへんのかどうかということをおただししたいんですが、今現在ある従来型のナンバープレートと、新しくご当地ナンバープレートをつくる場合、ナンバー申請に来て、どういう柄になるかわからないけど、昔の白いやつがいいんだと、商売柄昔の白いやつが私は使いたいと、そういうことで同時に選択できるというか、新しいものも従来型も選択できるような、そういうことも同時にやっているといると思うんですね。それは可能ですか。

○議長（井上勝彦君）総務部長。

○総務部長（那須浩二君）経費を度外視した場合は可能でございますが、やはり経費の面からどちらか一方という形にならざるを得ないかと思えます。

それから、先ほどの平成21年度は1万274台ということで訂正をさせていただきたいと思えます。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）だんだん台数も増えてきておると思うんですが、そういったことで、同時に選択できるような、そういったこともええん違うかなと。若い人はやはり新しいナンバープレートを導入されるとそちらを選択するだろうし、大概の人は。しかしながら、商売とかいろんな問題で、昔の白ナンバーがええよという方もおるといふことで、同時に進めていくというのも一つの案だと思うんですよ。

それから、金型で新しいプレートをつくっていただくことになったら、申請される方に、ナンバープレートについては料金をもらえないと、そういうことになっておるんやけども、これを新しいものに変更した分の負担、従来のナンバープレートについては1枚当たりだいたいどれぐらいするんかわからへんのやけども、どれぐらいで作成されておるかわかりますか。1枚当たりの単価を教えてくださいんですけども、変更した場合の実費分を申請者の方に負担していただくと。これは求められないですか。

○議長（井上勝彦君）総務部長。

○総務部長（那須浩二君）作成料につきましては、先ほどの答弁の中でもお答えさせていただきましたかと思いますが、現行は1枚120円、そして新しくそういうデザインを施しますと360円と、約3倍ほどの単価差が生じます。

そして、原動機付き自転車に標識をつける目的、いわゆるこれは課税に対する標識ということでございますので、手数料を徴することはできないということが定められております。ただ、毀損などの場合の再交付についてというあたりでは、実費徴収というあたりは検討の余地が残ってくるのかなと思いますので、交換というケースも検討させていただく余地があるかなと思います。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）現行のナンバーが1枚120円されるんですか。今の白いナンバーは。新しい金型でオリジナルナンバーに変えたら360円と、約3倍ほどの値がつくということであるんですけども、実費分を負担、今までの120円から要った分については、実費分を負担していただくということはあかんの。これは可能じゃないですか。

○議長（井上勝彦君）総務部長。

○総務部長（那須浩二君）その実費分という解釈部分のあたりなんですけど、いわゆる課税目的の標識という形で交付をさせていただくものについては、手数料等を徴することができないということになっております。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）わかりました。今回提案させていただいたんですが、和歌山県にとっては初めての導入になるということ、話題性もあって広告、PRにもなっていくということで提案をさせていただいておるんですが、これから観光行政、観光の交流、そういったことも市長も言われておるんですが、そういったことで、市内にもいろいろとバイクに乗って配達している新聞配達員とか郵便局員、牛乳屋もおれば銀行員もおる、デリバリーというか、バイクでずっと市内をめぐっている方もおられるんで、かなりの宣伝効果があると思うんですよ。バイクで大阪へも行っている、五條市も、奈良県でも行きますので。そういったことで、ひとつ考えていただきたいと思います。あと2年の在庫があるということがネックになってきておると思うんですけども、その時期が来ましたら前向きに研究、取り入れていただきたいなど、かように思います。和歌山県でやっていないのでやっていただきかったんやけど、あと2年後はどうなるかわかりません。そういったことで、

前向きに早く導入していただきたいということで要望しておきます。

次の電気自動車の普及に向けた取り組みについて、部長からご答弁をいただきました。今度、保健福祉センター、これの開設時に合わせまして、電気自動車充電設備、これらを導入されるということで、大変ありがたく思います。

この充電設備については、県の補助金があったんだけど、これは今年度中に間に合わないということで見送ったそうなのですが、これは市単独でやんな仕方がないかな。国の補助、県の補助、もう今ないと思うんですけども。それと、一般に無料で充電器を開放して充電していただくと。これがもうサービス、大事なことだと思うので、その辺はどのようなお考えなのかお聞かせください。

○議長（井上勝彦君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（上田敬二君）県の補助につきましては、先ほどご答弁させていただきましたように、補助事業完了年度と保健福祉センターの整備年度との調整がうまくつかなかったということで、市単独で設置いたします。

それと、使用の対価でございますけれども、本来でしたら、市費で設置するものですから対価をいただくというのが本筋だと思うんですけども、まだ電気自動車というのは黎明期で、全国的にはまだ設置がこれから進むような状況でございますので、無料開放を基本的に考えておりますけれども、将来についてはまだ今後の検討課題になろうかと思っております。

以上です。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）ぜひとも無料で一般開放していただきたいと思います。

それと、電気自動車の購入については、今、

国のほうでもエコカー減税、いろんな減税を国の施策で行っておるんですが、これは車の登録を2013年1月末までに終えなあかんということになってございます。それにのっつて電気自動車を購入されるんですか。

○議長（井上勝彦君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（上田敬二君）電気自動車については、一応2台導入することにしておりますけれども、今議会に上程しております新年度予算に計上させていただいております。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）国の行っているエコカー減税、これに乗っかって購入2台されると。これは、公共の自動車になっていたらもらえないの。

○議長（井上勝彦君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（上田敬二君）適用されるものでしたら、当然申請させていただきます。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）これを早めていただかんと、1月31日までに登録になっておる車でないとももらえないんです。エコカー減税。それと、電気自動車についてはクリーンエネルギー自動車導入促進対策費、これは78万円くれるんです。自動車税とか取得税とか免除されたい最大100万円の控除がございまずので。だから、その国の優遇施策があるうちに活用して、ぜひともこの2台を購入していただきたいと思うんですが、そのようになつとるんですか。

○議長（井上勝彦君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（上田敬二君）まだ予算を認めていただけていないので、一応計上させていただきますして、来年の1月末までということでしたら、当然それを視野に契約、購入を行っていきたいと思います。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）ぜひともそのようにし

ていただきたいと思います。

それから、あと一つお伺いしたいことは、電気自動車を購入して保健福祉センターに2台置くんですけれども、これは市民の方々に貸し出す車としていただけるんですか。

○議長（井上勝彦君）健康福祉部長。

○健康福祉部長（上田敬二君）公用車で購入しますので、市民への貸し出しは考えておりません。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）ぜひとも市民の方々に普及啓発、これは一般のディーラー車もやっておるわけやけれども、やはり市が購入して、今度電気自動車を普及していくということで考えておられるんですしたら、ぜひとも市民の方に2台貸し出すことも大事なことだと思うんですよ。前に市の公用車については公共の保険に入っておるので、一般の方には貸し出せない、保険がおりないという答弁をいただいたんですけども、ぜひとも電気自動車2台については民間の保険に加入していただいて、市民の方が乗っても保険がおりるような、そういった施策をとっていただきたいと思います。民間の保険会社も電気自動車については割引をどっとやっていますよ。割引をどっと行っていますので、そういったことも研究していただいて、なるべく一般の方に貸し出して、普及を考えた上で貸し出すというようなことも考えていってほしいと思いますが、いかがですか。

○議長（井上勝彦君）副市長。

○副市長（清原雅代君）前回も公用車について民間への貸し出しというご質問をいただいたときに、市が所有する車についてはそういったいろんな問題があるので、それはもうできませんということでお答えをさせていただいておりますが、市の市有物件として入っている保険であれ、民間で入る保険であれ、市

の公用車ということに変わりはありませんので、ただいまご提案いただきました市民の貸し出しというのは、それについては考えておりません。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）ほんなら何のために購入するのかな。何のために電気自動車を購入するんですか。普及するためには、やっぱり貸し出して、電気自動車こんなやなというのを体験してもらおうということが大事だと思うんでね。乗るのはわかるとんやけど、何のために2台も購入して、普及させていくためには、乗せるんですか、一般の人を。後ろに乗ってもらって体験してもらうんですか。

○議長（井上勝彦君）財政課長。

○財政課長（北山茂樹君）今回の電気自動車購入費につきましては、国費事業で購入予定でございます。したがって、市民に貸し出すということになりますと、目的外使用ということになりますので、補助金返還の対象になりますのでできません。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）そんな制度なのかな。なるべく普及できるような形で取り組んでいただきたいと思います。

次に移るんですが、今、県のほうで、この間から電気自動車の普及ということで充電器の募集というか、補助金を出して幅広く行われたわけですけども、これは市のほうは申請をしなかったんですよ。これは保健福祉センターに間に合わないということで申請しなかったんですけども、市の施設というのは何も保健福祉センターだけやなしに、庁舎も含め、あるいはやどり温泉、いろんな公共施設がございますでしょう。そういったところで10分の10の補助、そうでしょう。加えたら。全部県が出していただいて設置をするような要綱で募集をしたんですけども、橋本市は

申請されていなかった。申請しないとやっぱり、宝くじ買うのも、宝くじもまず買わんと当たらんということで、9件申請されたんですよ、市町村が。9件申請されて7市町村が充電器を設置するというのに、決定になったんです。商店街は今回、隅田の商店街ですよ、私がこの一般質問をするにあたっていろいろと調べておりましたら、県のこういう補助制度にぶち当たって、これは商店街にとってプラスになることだから、地球温暖化も含めたいろんな問題で取り入れてやっていこうと、こうなったわけ。申請して決定されたからやれる。市のほうは、申請を、こういう制度の連絡をいただきながら、橋本市の公共施設で該当なしと、こういった報告を上げられておる。何で該当ないんですか。やどり温泉に設置したらよかったのと違いますか。該当するところ、いっぱいあったと思うんですよ。無償で、10分の10で申請されていなかったら、何も決定になることないですよ。この辺のことをどのようにお考えでしょうか。

○議長（井上勝彦君）市民部長。

○市民部長（井浦健之君）先ほど演壇から答弁を差し上げたわけですが、環境衛生課のほうも、県に急速充電器の公共施設への設置についての問い合わせを行いました。県の回答といたしましては、今回の補助金については、世界遺産の主要拠点への設置をめざしておるということで、県内7カ所といった一定の話があったようでございます。したがって、今言われていますような、例えば市役所とかそういったところには対象にもならないといった状況もありましたので、議員が今おっしゃられますように、昨年5月15日に該当なしといった報告を県にさせていただいたということでございます。

以上でございます。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）これはだいたい県の制度で、和歌山県にこられる観光客の60%は近畿圏からのお客様ということになっておるといことで、観光面にしてもさっき言われておりました。力を入れていくと。そういうことで、大津市あるいは京都、奈良から電気自動車に乗って来るお客さんが、充電をやはりその間でしないと切れてしまうといことで、高野の世界遺産に電気自動車で来ていただく方に充電施設を設置しよかといことで始まったものなんですよ。だから、最初からそう決められたものじゃなかったんですよ。道の駅とかそういったところばかりじゃなしに、高野町は庁舎にも充電器を置いているでしょう。だから、高野山への入り口、橋本市も申請されたら該当になっていたかもわからん。決定されていたかもわからんということですよ。それをされなかったということが、やはり私は悔やまれる、そういったことでございます。

今までの県の施策というのは、国の制度、県の補助制度、いろいろございます。これが、一向に知らされていないといつか、これも今回、この質問をすることに際していろいろと調べていて、県の補助制度にぶち当たって、これを申請して、充電施設を設置していこうかということになったんですけれども、これはやはり一生懸命取り組んでいるといつか、こんなん知らせても皆やってくれへんと、そう思われて教えてくれへんなんだか、経済部長、どうですか。いつも言っているんですけど、国、県の補助制度、あったら教えてくださいよと。これ、わからんならそのままですよ、商店街も取り組んでいないんやからね。こういったことをやはり幅広く、昔からずっとこれ言うてるんやけれども。何で、これどこでとまっていたんですか。市民部でとまっていたんですか。経済部長、このことを知っ

ていたんですか。お聞かせください。

○議長（井上勝彦君）市民部長。

○市民部長（井浦健之君）県のほうから通知が来まして、市民部のほうでいろいろ関係課へ問い合わせをした結果、該当ないということもありまして、こういう結果になったわけですけれども、ただ議員が今おっしゃられますように、例えば国の制度であれ、県の制度であれ、そういったことをきちんと周知を市民の方にしていくと、そういった弱さというのは確かにあったかなというふうに私自身もおります。今後、そういった形で市の広報なり、または商工会議所、商工会等を通じて周知するとかいった形のものをとっていききたいなというように考えております。

以上でございます。

○議長（井上勝彦君）9番 上田君。

○9番（上田良治君）よろしく願いしておきます。

そういったことで、今後についても一生懸命取り組んでいる団体がおられましたら、役所のほうも本当にバックアップしていただきたいと、かように思います。

それと、また市民の方にEV車を、やはり貸し出して普及していく。また充電器も無料で一般開放していただいて、そういったことでEV車の普及を図っていただきたいということ、それらを要望いたしまして、よろしく願いしておきます。

質問終わります。

○議長（井上勝彦君）これをもって、9番 上田君の一般質問は終わりました。